

県内景気動向調査

株式会社清水地域経済研究センター

要旨

〈今期（2021年10月時）〉

業況：半導体不足、資源高騰の影響により悪化した、先行きは改善見通し

- ・今期の業況全般 DI（「良い」から「悪い」を差引きし指数化）は、前回（2021年7月時調査）に比べ▲10.4^{ポイント}の▲1.8と悪化した、先行き（2022年1月時予想）は+15.3^{ポイント}の13.5と改善の見通し。
- ・売上 DI も同様に、前回比▲14.4^{ポイント}の▲8.2と減少したが、先行きは+20.5^{ポイント}の12.3と増加の見通し。
- ・採算 DI も前回比▲10.8^{ポイント}の▲22.4と悪化した、先行きは+12.4^{ポイント}の▲10.0と好転の見通し。
- ・販売単価 DI も前回比+0.8^{ポイント}の1.8と上昇し、先行きは+3.5^{ポイント}の5.3と更なる上昇の見通し。
- ・仕入単価 DI は前回比+10.7^{ポイント}の45.0と上昇したが、先行きは▲0.6^{ポイント}の44.4と低下の見通し。
- ・引き合い DI は、前回比▲10.5^{ポイント}の1.2と減少したが、先行きは+10.8^{ポイント}の12.0と増加の見通し。
- ・在庫 DI は、前回比+7.7^{ポイント}の4.3の余剰となったが、先行きは▲7.3^{ポイント}の▲3.0と不足の見通し。
- ・今期については、8月の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、世界的な半導体不足や部品調達難、原油を始めとする資源高騰による影響が大きく、売上減少、仕入単価上昇、採算悪化等により DI は悪化となった。先行きは、依然として半導体等の部材不足、資源高騰の中ではあるが、価格交渉に入っている企業もあり、採算面等において先行きにその効果が出てくることが期待される。またワクチン接種が進み、感染減少による行動制限解除の中、経済活動の本格的再開の期待もある。

資金繰り・設備・雇用：資金繰り悪化、設備不足、人手不足

- ・資金繰り DI は、前回比▲4.2^{ポイント}の▲7.1と悪化した、先行きは+7.7^{ポイント}の0.6と好転の見通し。
- ・設備 DI は、前回比+1.4^{ポイント}の▲3.0と設備不足改善の状態となり、先行きは▲5.9^{ポイント}の▲8.9と設備不足の傾向の見通し。
- ・雇用において、人員数 DI は、前回比▲4.3^{ポイント}の▲19.3と人手不足の状態となり、先行きは▲5.8^{ポイント}の▲25.1と更なる人手不足の傾向の見通し。労働時間 DI は、前回比▲0.4^{ポイント}の▲1.8と減少したが、先行きは+5.3^{ポイント}の3.5と増加の見通し。賃金 DI は、前回比+2.3^{ポイント}の15.8と増加したが、先行きは▲1.8^{ポイント}の14.0と減少の見通し。

経営上の課題と対応方針

- ・経営上の課題としては、「売上減少・停滞」が21.9%であり、その対応方針は「新規取引先開拓」が15.4%となった。次いで「人手不足・技術者不足」が13.0%であり、その対応方針は「新規採用・獲得」が10.1%となった。また「後継者問題」2.4%に対して「金融機関との連携」は1.2%であった。

SDGs、ESG に対する認知度・対応状況

- ・SDGs に対する認知度・対応状況として、「知ってはいるが対応は検討していない」が62.1%であったが、「対応・宣言を検討している」18.9%、「対応・宣言を行っている」9.5%であった。
- ・ESG に対する認知度・対応状況として、「知ってはいるが取組みは検討していない」が36.1%であったが、「提案を受ければ取組みを検討していく」7.7%、「対応・取組みを行っている」2.4%であった。

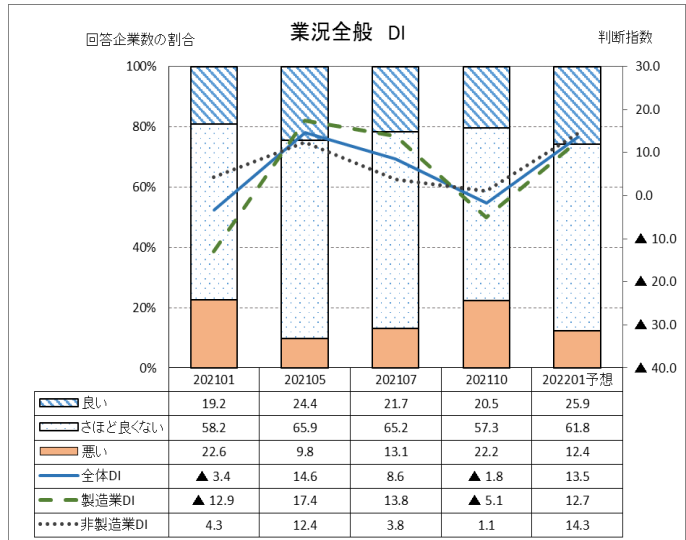
業況全般

業況全般 DI は前回に比べ悪化したものの、先行きは改善の見通し

今期の業況全般 DI における全体 DI は、▲ 1.8（前回比▲10.4^{ポイ}_{ント}）と悪化となった。製造業 DI は▲5.1（同▲18.9^{ポイ}_{ント}）、非製造業 DI は 1.1（同▲2.7^{ポイ}_{ント}）と、ともに悪化となった。

先行きでは、全体 DI は 13.5（今期比+15.3^{ポイ}_{ント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは 12.7（同+17.8^{ポイ}_{ント}）、非製造業 DI の先行きは 14.3（同+13.2^{ポイ}_{ント}）と、ともに改善する見通しである。

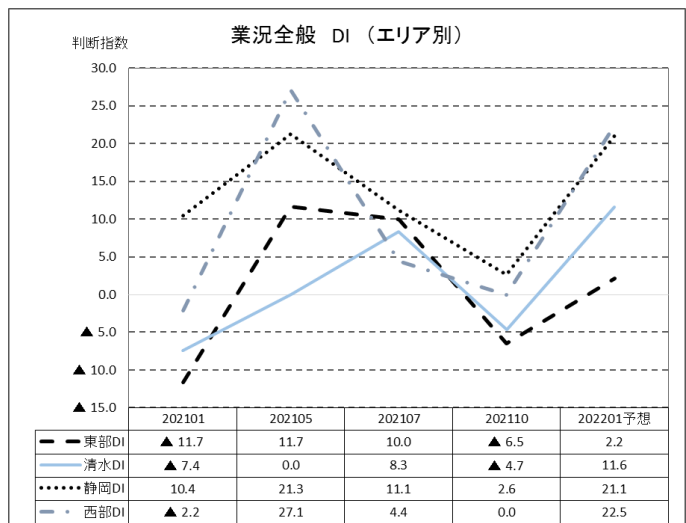


業況全般（エリア別）

エリア別の業況全般 DI は全てのエリアで悪化したものの、先行きは全てのエリアで改善の見通し

今期のエリア別の業況全般 DI では、東部 DI が▲6.5（前回比▲16.5^{ポイ}_{ント}）と最も悪化し、次いで清水 DI が▲4.7（同▲13.0^{ポイ}_{ント}）、西部 DI が 0.0（同▲4.4^{ポイ}_{ント}）、静岡 DI が 2.6（同▲8.5^{ポイ}_{ント}）と全てのエリアで悪化した。

また、先行きについては、全てのエリアで改善する見通しである。



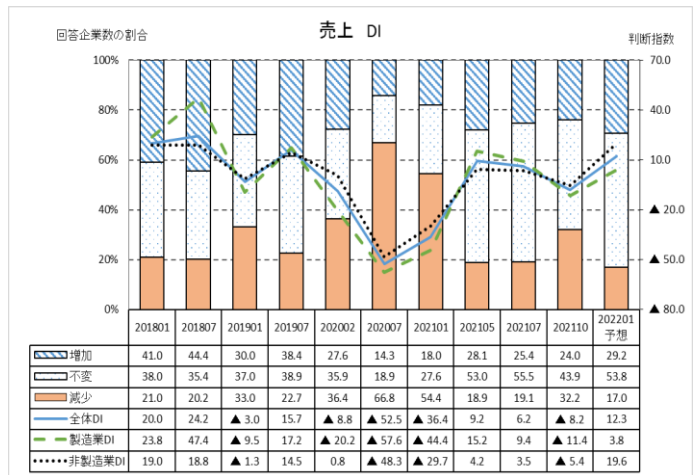
売上

売上 DI は前回に比べ減少したものの、先行きは増加の見通し

今期の売上 DI における全体 DI は▲8.2（前回比▲14.4^{ポイント}）と減少した。

製造業 DI は▲11.4（同▲20.8^{ポイント}）、非製造業 DI は▲5.4（同▲8.9^{ポイント}）と、ともに減少した。先行きでは、全体 DI は 12.3（今期比+20.5^{ポイント}）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは 3.8（同+15.2^{ポイント}）、非製造業 DI の先行きは 19.6（同+25.0^{ポイント}）と、ともに増加する見通しである。



採算

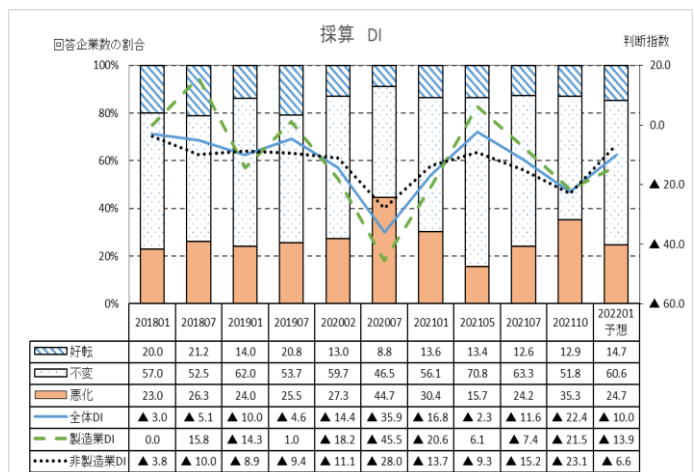
採算 DI は前回に比べ悪化したものの、先行きは好転の見通し

今期の採算 DI における全体 DI は▲22.4（前回比▲10.8^{ポイント}）と悪化した。

製造業 DI は▲21.5（同▲14.1^{ポイント}）、非製造業 DI は▲23.1（同▲7.9^{ポイント}）と、ともに悪化した。

先行きでは、全体 DI は▲10.0（今期比+12.4^{ポイント}）と好転する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲13.9（同+7.6^{ポイント}）、非製造業 DI の先行きは▲6.6（同+16.5^{ポイント}）と、ともに好転する見通しである。



販売単価

販売単価 DI は前回に比べ若干上昇したものの、先行きは更に上昇の見通し

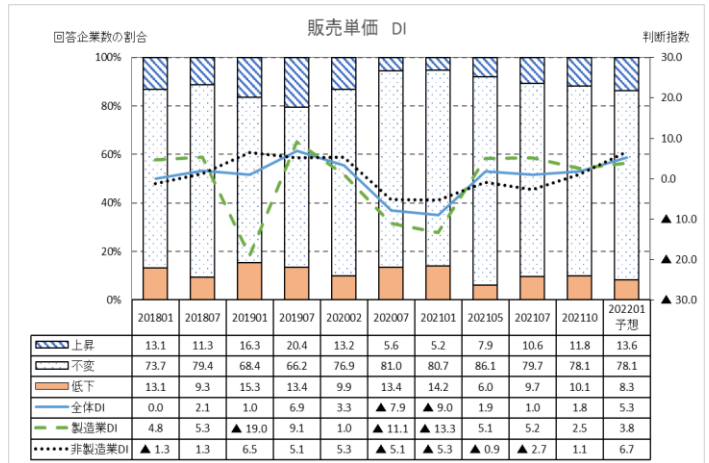
今期の販売単価 DI における全体 DI は 1.8

(前回比+0.8^{ポイント}) と若干上昇した。

製造業 DI は 2.5 (同▲2.7^{ポイント}) と低下したものの、非製造業 DI は 1.1 (同+3.8^{ポイント}) と上昇した。

先行きでは、全体 DI は 5.3 (今期比+3.5^{ポイント}) と上昇する見通しである。

製造業 DI の先行きは 3.8 (同+1.3^{ポイント})、非製造業 DI の先行きは 6.7 (同+5.6^{ポイント}) と、ともに上昇する見通しである。



仕入単価

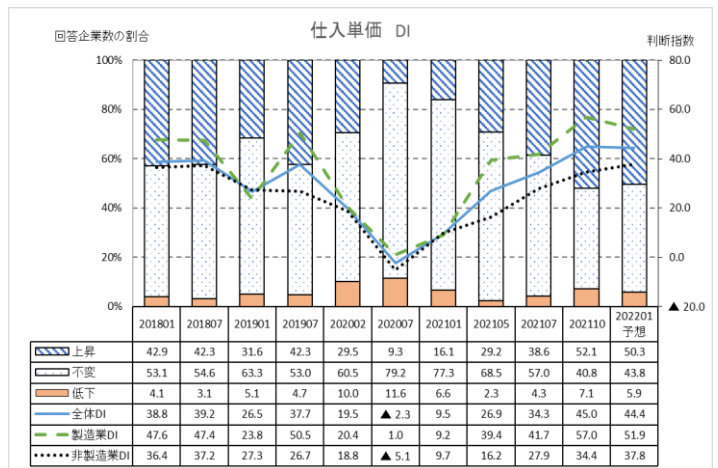
仕入単価 DI は前回に比べ上昇し、先行きは低下を見通しであるが高水準見込

今期の仕入単価 DI における全体 DI は 45.0 (前回比+10.7^{ポイント}) と上昇した。

製造業 DI は 57.0 (同+15.3^{ポイント})、非製造業 DI は 34.4 (同+6.5^{ポイント}) と、ともに上昇した。

先行きでは、全体 DI は 44.4 (今期比▲0.6^{ポイント}) と若干低下する見通しであるが、依然として高水準を見込む。

製造業 DI の先行きは 51.9 (同▲5.1^{ポイント}) と低下する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは 37.8 (同+3.4^{ポイント}) と上昇する見通しである。



引き合い

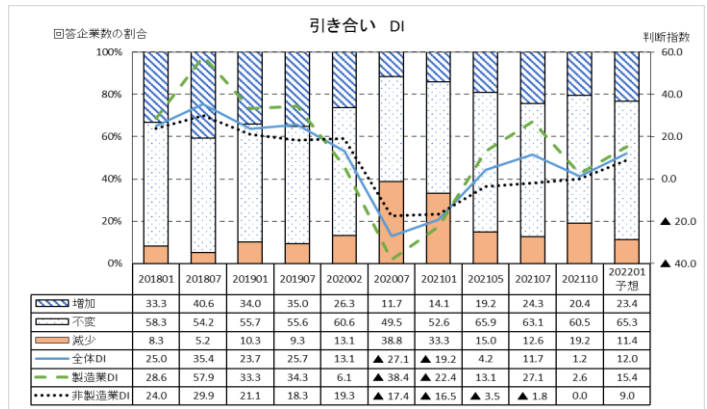
引き合い DI は前回に比べ減少したものの、先行きは増加する見通し

今期の引き合い DI における全体 DI は 1.2（前回比▲10.5^{ポイント}）と減少した。

製造業 DI は 2.6（同▲24.5^{ポイント}）と減少したが非製造業 DI は 0.0（同+1.8^{ポイント}）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 12.0（今期比+10.8^{ポイント}）と増加見通しである。

製造業 DI の先行きは 15.4（同+12.8^{ポイント}）、非製造業 DI の先行きは 9.0（同+9.0^{ポイント}）と、ともに増加見通しである。



在庫

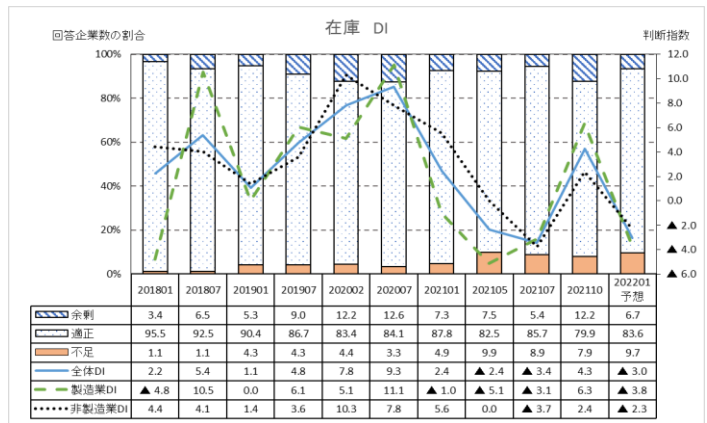
在庫 DI は前回に比べ余剰となったものの、先行きは不足する見通し

今期の在庫 DI における全体 DI は 4.3（前回比+7.7^{ポイント}）の余剰となった。

製造業 DI は 6.3（同+9.4^{ポイント}）、非製造業 DI は 2.4（同+6.1^{ポイント}）の余剰となった。

先行きでは、全体 DI は▲3.0（今期比▲7.3^{ポイント}）と不足する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲3.8（同▲10.1^{ポイント}）、非製造業 DI の先行きは▲2.3（同▲4.7^{ポイント}）と、ともに不足する見通しである。



資金繰り

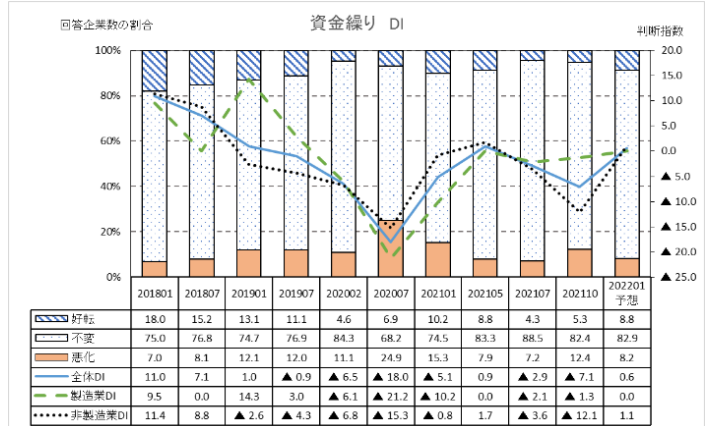
資金繰り DI は前回に比べ悪化となったものの、先行きは好転する見通し

今期の資金繰り DI における全体 DI は▲7.1（前回比▲4.2^{ポイント}）と悪化した。

製造業 DI は▲1.3（前回比+0.8^{ポイント}）と改善したものの、非製造業 DI は▲12.1（前回比▲8.5^{ポイント}）と悪化した。

先行きでは、全体 DI は 0.6（今期比+7.7^{ポイント}）と好転する見通しである。

製造業 DI の先行きは 0.0（同+1.3^{ポイント}）、非製造業 DI の先行きは 1.1（同+13.2^{ポイント}）と、ともに好転する見通しである。



設備

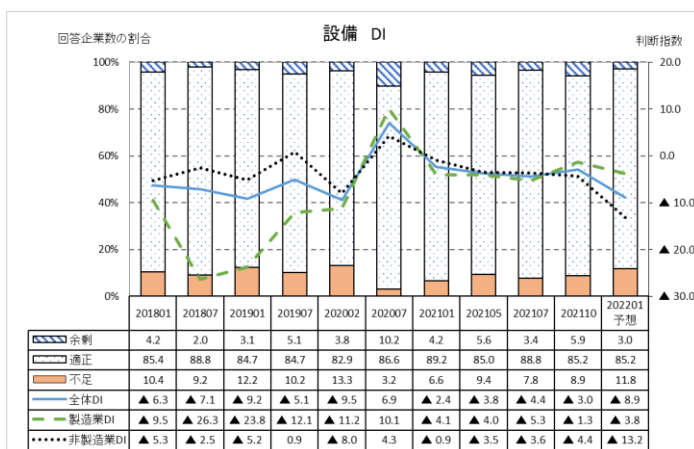
設備 DI は前回に比べ設備不足改善となったが、先行きは更に設備不足の見通し

今期の設備 DI における全体 DI は▲3.0（前回比+1.4^{ポイント}）と設備不足改善の状態となった。

製造業 DI は▲1.3（同+4.0^{ポイント}）、非製造業 DI は▲4.4（同▲0.8^{ポイント}）と不足となった。

先行きでは、全体 DI は▲8.9（今期比▲5.9^{ポイント}）と不足となる見通しである。

製造業 DI の先行きは▲3.8（同▲2.5^{ポイント}）、非製造業 DI の先行きは▲13.2（同▲8.8^{ポイント}）と、ともに不足となる見通しである。

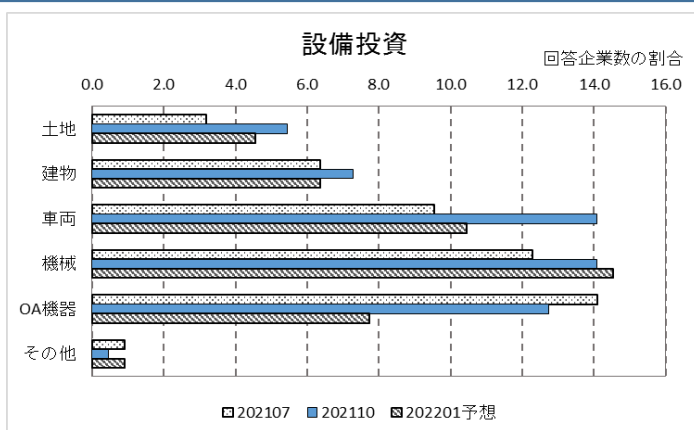


設備投資

設備投資については、今期および先行きも、機械、車両、OA 機器が主流

今期の設備投資の状況は、車両及び機械が共に 14.1%、OA 機器 12.7%、建物 7.3%、土地 5.5%、その他 0.5%となった。

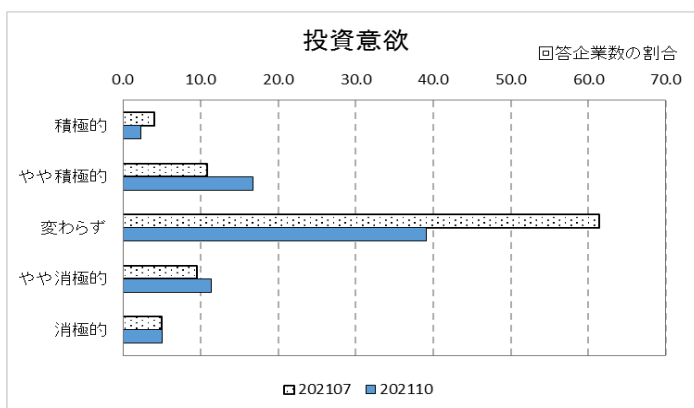
先行きでは、機械 14.5%、車両 10.5%、OA 機器 7.7%、建物 6.4%、土地 4.5%、その他 0.9%を投資する見通しとなった。



投資意欲

「変わらず」が前回比▲22.3^{ポイント}となり、「やや積極的」が+5.9^{ポイント}となった

今期の投資意欲の状況は、「積極的」2.3%（前回比▲1.8^{ポイント}）、「やや積極的」16.8%（同+5.9^{ポイント}）、「変わらず」39.1%（同▲22.3^{ポイント}）、「やや消極的」11.4%（同+1.9^{ポイント}）、「消極的」5.0%（同率）となった。



人員数

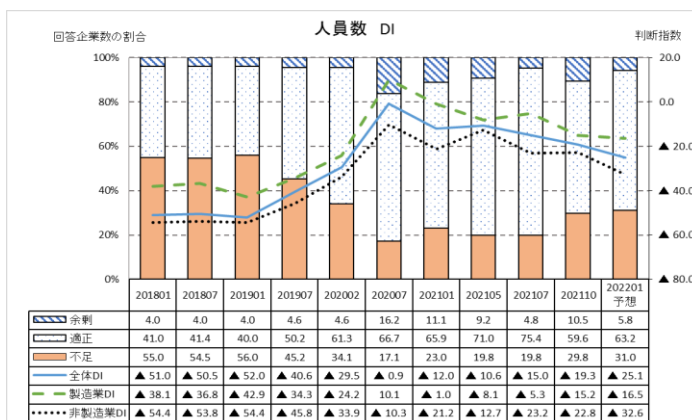
人員数 DI は前回に比べ人手不足となり、先行きは更に人手不足の見通し

今期の人員数 DI における全体 DI は▲19.3 (前回比▲4.3^{ポイント}) と人手不足となった。

製造業 DI は▲15.2 (同▲9.9^{ポイント})、非製造業 DI は▲22.8 (同+0.4^{ポイント}) となった。

先行きでは、全体 DI は▲25.1 (今期比▲5.8^{ポイント}) と更に不足となる見通しである。

製造業 DI の先行きは▲16.5 (同▲1.3^{ポイント})、非製造業 DI の先行きは▲32.6 (同▲9.8^{ポイント}) と、ともに不足となる見通しである。



労働時間

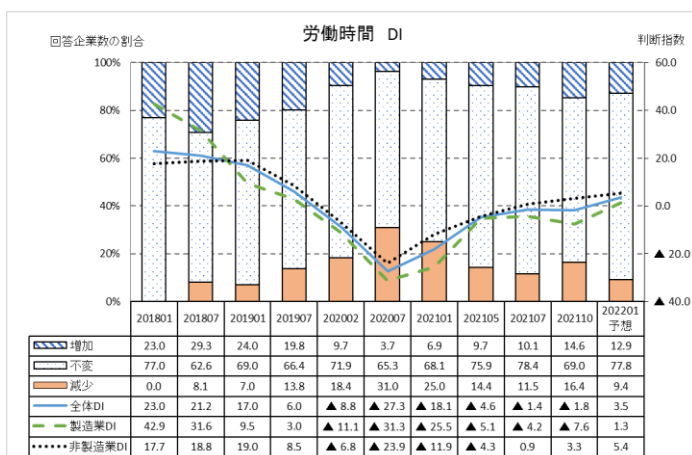
労働時間 DI は前回に比べ若干減少となったが、先行きは増加の見通し

今期の労働時間 DI における全体 DI は▲1.8 (前回比▲0.4^{ポイント}) と若干減少となった。

製造業 DI は▲7.6 (同▲3.4^{ポイント})、非製造業 DI は 3.3 (同+2.4^{ポイント}) となった。

先行きでは、全体 DI は 3.5 (今期比+5.3^{ポイント}) と増加となる見通しである。

製造業 DI の先行きは 1.3 (同+8.9^{ポイント})、非製造業 DI の先行きは 5.4 (同+2.1^{ポイント}) と、ともに増加となる見通しである。



賃金

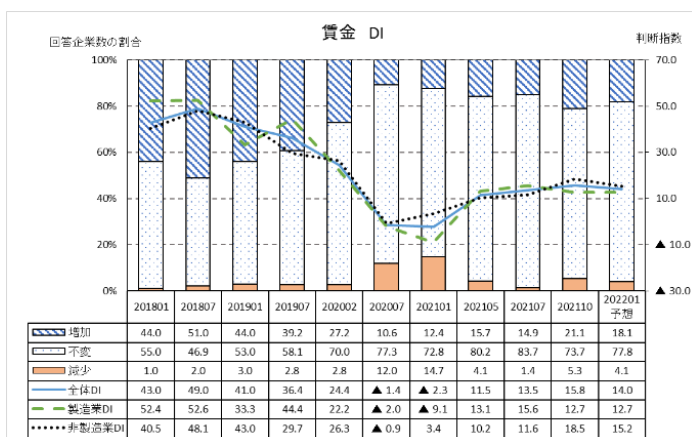
労働時間 DI は前回に比べ増加となり、先行きは減少の見通し

今期の賃金 DI における全体 DI は 15.8 (前回比+2.3^{ポイント}) と増加となった。

製造業 DI は 12.7 (▲2.9^{ポイント})、非製造業 DI は 18.5 (同+6.9^{ポイント}) となった。

先行きでは、全体 DI は 14.0 (今期比▲1.8^{ポイント}) と減少となる見通しである。

製造業 DI の先行きは 12.7 (同水準)、非製造業 DI の先行きは 15.2 (同▲3.3^{ポイント}) となる見通しである。



経営上の課題 課題に対する対応方針

経営上の課題として、「売上減少・停滞」が21.9%あり、その課題に対する対応方針として、「新規取引先開拓」が15.4%、「新規事業の取組み」が10.1%、「販売強化のための増員」は2.4%となった。

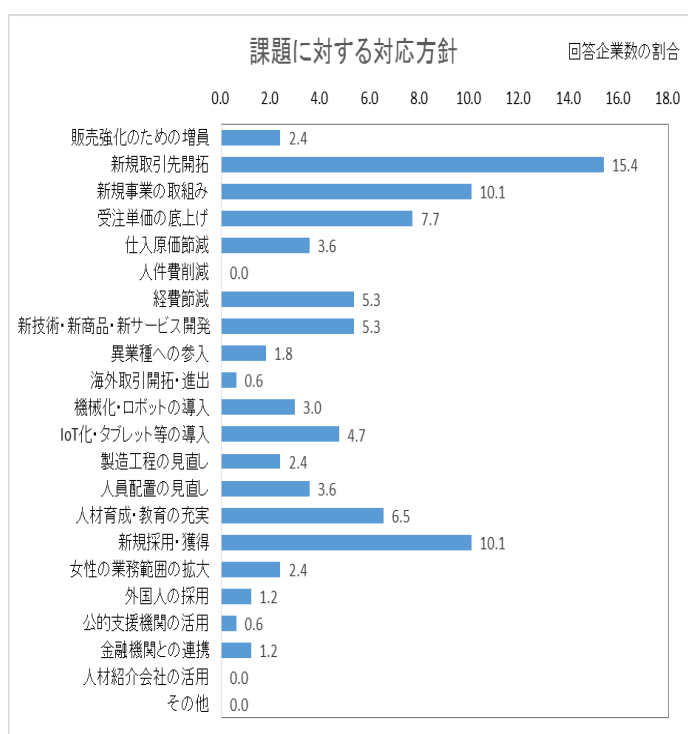
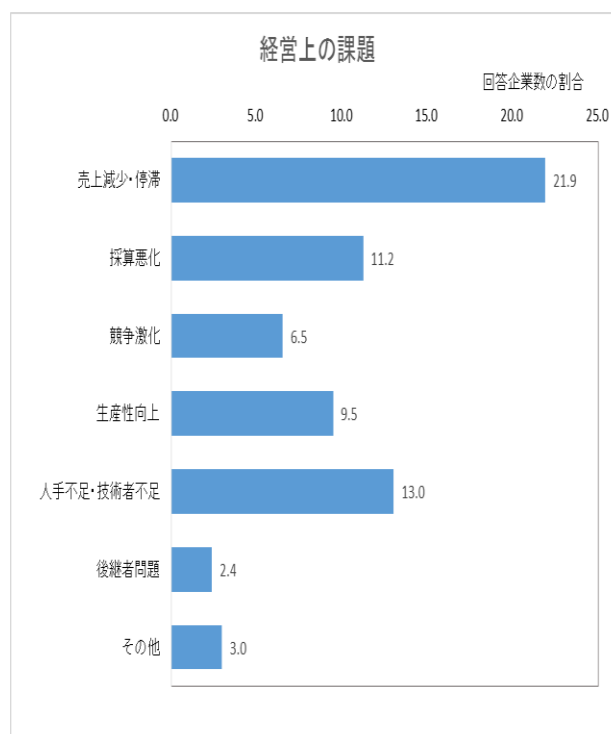
課題の「採算悪化」11.2%に対する対応方針として、「受注単価の底上げ」が7.7%、「経費削減」が5.3%、「仕入原価節減」が3.6%に対し、「人件費削減」の回答は無かった。

課題の「競争激化」6.5%に対する対応方針として、「新技術・新商品・新サービス開発」が5.3%、「異業種への参入」が1.8%、「海外取引開拓・進出」は0.6%となった。

課題の「生産性向上」9.5%に対する対応方針として、「IoT化・タブレット等の導入」が4.7%、「機械化・ロボットの導入」が3.0%、「製造工程の見直し」が2.4%となった。

課題の「人手不足・技術者不足」13.0%に対する対応方針として、「新規採用・獲得」が10.1%、「人材育成・教育の充実」が6.5%、「人員配置の見直し」が3.6%、「女性の業務範囲の拡大」が2.4%、「外国人の採用」が1.2%となった。

課題の「後継者問題」2.4%に対する対応方針として、「金融機関との連携」が1.2%、「公的支援機関の活用」が0.6%に対し、「人材紹介会社の活用」の回答は無かった。

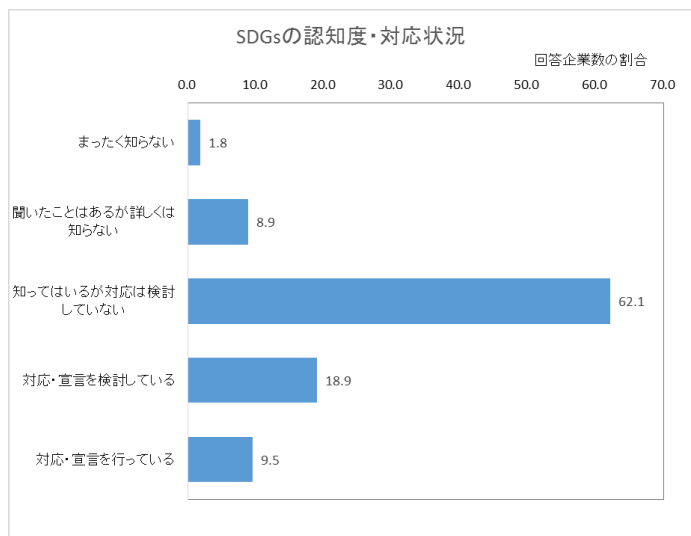


SDGs に対する認知度・対応状況

「知っているが対応は検討していない」が6割超

SDGs に対する認知度・対応状況については、「知っているが対応は検討していない」が62.1%、「対応・宣言を検討している」が18.9%、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」が8.9%、「対応・宣言を行っている」が9.5%、「まったく知らない」が1.8%となった。

「対応・宣言を行っている」企業16社のうち、建設業が4社と業界として積極的な取組み姿勢が窺われた。

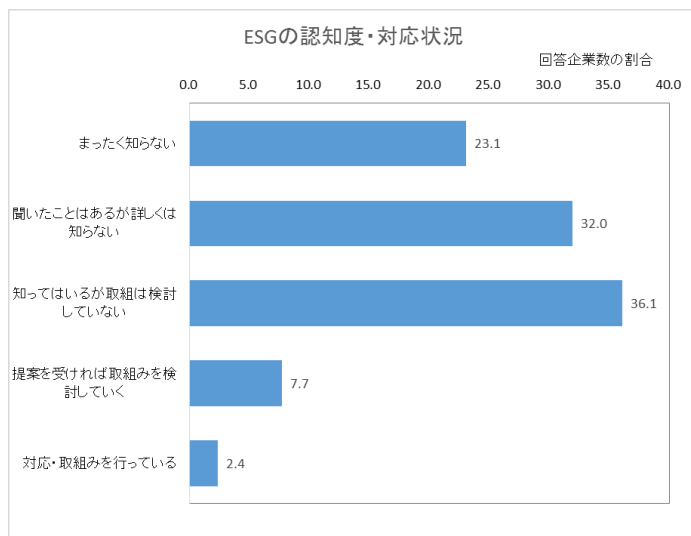


ESG 投融資に対する認知度・対応状況

「知っているが取組みは検討していない」が3割超

ESG 投融資に対する認知度・対応状況については、「知っているが取組みは検討していない」が36.1%、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」が32.0%、「まったく知らない」が23.1%、「提案を受ければ取組みを検討していく」が7.7%、「対応・取組みをおこなっている」が2.4%となった。

「まったく知らない」と「聞いたことはあるが詳しくは知らない」で半数以上となった。



特徴的なコメント

	業況全般(現状)	業況全般(先行き)
飲食物品製造業	巣ごもり需要で販売増加	引き続き引き合いあり
飲食物品製造業	原料高騰しているが、価格転嫁ができてきている	今年分の原料価格が下がる見込み
パルプ・紙・紙加工品製造業	大型イベントの中止、縮小の影響が長期化	イベント回復により、業務用ペーパーの拡販見込み
化学工業	中国情勢、為替の影響で輸入原料価格が高騰傾向	中国情勢の影響を受ける可能性
化学工業	資材仕入価格の上昇基調	材料費上昇を販売価格に段階的に転嫁の方針
金属製品製造業	自動車業界は、半導体不足、部品不足、研究開発費増加	仕事の有無が極端(ジェットコースター状況)
一般機械器具製造業	コロナの影響と部品の品薄状態で機械が売れても生産が出来ない	コロナの影響と品薄状態が継続し脱却できないと予想
一般機械器具製造業	原材料価格の上昇	現在の状況が先行きも続くと思われる
自動車・同部品製造業	コロナ、半導体不足、ロックダウンによる売上減少	自動車メーカーの増産計画の見込み
建設業	住宅設備・木材等資材の値上がり激しい	販売価格転嫁を促進
卸・小売業	仕入単価の高騰により採算は悪化傾向	年末の需要に向けて好転予想
物流・運輸業	ドライバー不足、燃料単価の上昇	燃料が下がらなければ資金繰りが悪化
医療・福祉	最悪の3ヶ月	コロナワクチン接種で売上確保
その他サービス業	緊急事態宣言の県内拡大及び中京圏の延長の影響大	緊急事態宣言の解除で今後、入園者数は回復傾向

	人員数(現状)	人員数(先行き)
飲食物品製造業	慢性的な人員不足	採用は積極的
パルプ・紙・紙加工品製造業	契約社員の継続雇用ストップ	経済回復により、人員は適正となると予想
化学工業	波のある受注状況のため、残業や休日対応が発生	積極的に若い人材を確保する
金属製品製造業	仕事の有無で、人の過不足が極端に違ってくる	将来を見据えて若年20～30歳を教育(実技)を活発させたい。技術有る者が最後に勝つ。
卸・小売業	静岡県最低賃金の上昇	人材紹介会社や求人サイトを使用して人材確保する
物流・運輸業	慢性的な人手不足	慢性的な人手不足
医療・福祉	コロナ対策の為、人材を多めに雇用しているので人件費、教育費はかかっている	職員が雇用できるか不安

NO.	業種名	先数
11	飲食物品製造業	11
12	木材・木製品製造業	7
13	パルプ・紙・紙加工品製造業	10
14	化学工業	7
15	金属製品製造業	14
16	一般機械器具製造業	12
17	自動車・同部品製造業	13
18	その他製造業	4
21	建設業	15
22	不動産業	11
31	卸・小売業	20
41	物流・運輸業	16
51	医療・福祉	17
52	その他サービス業	12
		169

調査の概要

調査時点：2021年10月9日～27日

調査方法：郵送による記名アンケート方式、お

よびグーグルフォームによる電子回答方式

対象企業：清水銀行取引先企業 225 社

回答企業：169 社

回答率：75.1%

株式会社清水地域経済研究センター

発行日 2021年11月1日

〒424-0941

静岡県静岡市清水区富士見町2番1号

Tel.054-355-5510 Fax.054-353-6011

E-mail smz-center@juno.ocn.ne.jp